

久しぶりの私からのお話です。よく聴いてくださいね。今から六十五年前の明日、つまり六月二十五日、素晴らしいことが起きました。ある野球選手がその主役。野球選手という、今は「大谷選手」の名前がすぐに浮かびますが、この頃、まだ大谷選手は生まれていません。ちなみに、この私も生まれていません。

今から六十五年前の六月二十五日の夜九時十分頃の出来事。その日は巨人と阪神という野球チームが試合をしていました。この試合は、天皇・皇后両陛下が日本で初めて球場にお越しになり、野球の試合をご覧になるという特別な日でした。

天皇がご覧になる試合ということで「天覧試合」と呼ばれ、大評判になっていたようです。

監督も選手もとても緊張していたに違いありません。場所は後楽園球場という、今の東京ドームの前身の球場で、この当時はドームのない普通の球場でした。天皇一行がいらつしやるということで、貴賓室に防弾ガラスをはめ込むことも検討されたようですが、熱のこもった観衆の生の様子をご覧になりたいという天皇のご意向で、遮るものをつけなかったのだとか。

そのため、万が一ファウルボールが飛び込んできたとき、試合の解説役の男性が球をパ

ツと捕れるようにと、グローブを手にしていたのだそうです。

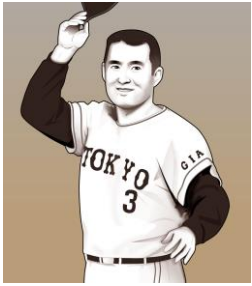


試合は九回の裏まで進み、四対四の同点。天皇陛下がお帰りになる時刻は九時十五分。テレビの中継も九時十五分まで。このまま行くと、時間切れで、天皇陛下もテレビを見ている人たちも、試合の結果が分からぬまま終了となるところです。

そして、登場するのが巨人の先頭打者だったこのお方。九時十分頃、パコーンと打った球はなんと、ホームラン。劇的すぎるサヨナラホームランでした。

この当時このお方は、打撃の調子が悪くて悩んでいたそうで、それまで愛用していた細身のバットをやめて、重いバットに変えて、試合前夜は、バット五本を枕元に置いて寝たのだとか。きっと、「打てますように。」という願いを込めて寝たのでしょうね。

この方のお名前こそ、「長嶋茂雄」。立教大学の卒業生です。



長嶋さんは、立教学院栄誉賞の第一号の受賞者。国民栄誉賞も受賞し、野球界としては初めて、文化勲章も受賞しました。その長嶋さんの活躍物語の幕の開いた場所が、立教大学というところで、立教学院創立一五〇周年の記念行事の一環として、大学の「鈴懸（すずかけ）の径（みち）」の真ん中に記念のモニュメントが五月十一日に完成しました。

その記念碑には、「The Place of Prologue 過去…現在…未来をつなぐ」と、書いてあります。長嶋さんの人生の「序幕」(Prologue)の「場」(Place)としての立教大学キャンパスに、長嶋さんを顕彰するモニュメントを設置したというわけです。

このモニュメントには、長嶋さんからの「立教の後輩たちへ」というメッセージも記されていて、長嶋さんのお好きだったスズカケの若木が記念に植樹されています。

実は長嶋さんは、君たちのおじい様やおばあ様や、七十歳以上の方なら知らぬ人はいないくらい、有名な方なのです。

今後、君たちの中から、立教小学校をPrologueの場として、日本や世界で活躍する人が出てきてくれることを期待しています。

今度機会があつたら、おじい様やおばあ様と一緒に立教大学のキャンパスに行つて、このモニュメントを見に行つたらいかがですか。

(立教小学校校長 田代 正行)